

# 湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 薬学部

講師 細谷龍一郎

(令和5年6月10日作成)

## 1. 教育の責任

湘南医療大学薬学部の理念として、「臨床に強い薬剤師の育成」を掲げている。それは、現在の社会において薬剤師に求められる素質である。地域医療における医療チームの中で薬剤師の職能を十分に発揮するためには、薬学のサイエンス基礎、および課題解決のための研究マインドを持ち合わせる必要がある。本学の教育の特徴として、全教員のうち臨床系教員の占める割合は5割と、他大学と比較し多い。教員はこれらの特徴を生かし、教育に当たる必要がある。

私が担当する「調剤学」(3年後期)は薬剤師の業務における基本的技能の裏付ける知識を養う科目である。さらに、学問としての調剤から、実践に結び付ける実務実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにつなげていく。また、チュートリアル演習Ⅱについては、薬学部1・2・3年で学んだ知識を用いて患者症例に向き合い、実践を行っていく科目である。臨床現場で働く上薬剤師としての素養を身に着けることができると考える。

これらの科目を担うにあたり、自身の病院薬剤師であった経験を活かし、教育にあたる所存である。すべての講義、実習において、常に臨床現場を想定できる内容にするよう配慮し、技術面だけではなく、薬剤師として世に出るための知識、技術、素養を教育していく。

担当科目：

「調剤学」(薬学部3年前期)

「実務実習Ⅰ」(薬学部3年後期)

「チュートリアル演習Ⅱ」(薬学部4年前期)

「実務実習Ⅱ」(薬学部4年前期)

「実務実習Ⅲ」(薬学部4年後期)

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

私は薬剤師免許取得した後、15年間を病院薬剤師として勤務してきた。薬剤師の基本業務ある調剤、注射調製、抗がん剤調製、医薬品情報(Drug Information)等に従事し、その後は主に救急医療の中で長い時間を過ごした。その中で、患者や、その命に対する接し方、そして他の医療者との協力関係についての認識が非常に重要であると感じた。薬剤師は医療職の中でもジェネラリストと認識されることが多く、医薬に関する幅広い知識が求められる。大学で学んだ知識や技術を実践で理解し、さらに臨床の中で問題解決を行っていく必要がある。

私の教育理念は、臨床現場で生きる知識・技術を有し、臨床課題について他医療職とともに解決できる薬剤師を育てることである。大学生活全般を通して、臨床現場で働く薬剤師についてのイメージを膨らませ、現代のニーズに合わせた薬剤師を目指してほしい。

## 2) 理念をもつに至った背景

私は救急医療の中に身を置きながら、日本における災害現場における医療にも従事してきた。病院内だけではなく多種多様の医療現場において、多くの医療従事者と共に患者の薬物治療を担ってきた。急性期や被災地における医療現場では、大学で学ぶ薬学的技術・知識だけで治療に従事することは困難である。医師や看護師との共通言語や知識を持った上でコミュニケーションが求められており、その中で薬剤師としての視点から意見を言う必要がある。治療においては、薬剤師の医学的・薬学的な知識不足が患者の重症化や、死に直結する可能性を感じながらの業務である。特に、被災地での医療では、医師1名、看護師1名、薬剤師1名という最小単位の医療チームで活動するため、薬剤師が行う提案の責任は重大である。私が受けた大学薬学教育では、医師主導の医療という認識を持つことがあり、薬剤師の職能が患者の命と直結する感覚を持つことは少なかった。それらのことより、大学教育においては臨床現場で生きる知識・技術を教育し、さらに臨床課題について他医療職との良好なコミュニケーションを養える環境を整えることが重要である。担当する予定の急性期医療や災害医療の講義の中では、薬剤師の職能が患者を救うという感覚を薬学生に伝え、大学かつ私の教育理念に沿った教育を行っていきたいと考えている。

## 3. 教育の方法・戦略

### ・概要

私は上記の理念である「臨床現場で生きる知識・技術を有し、臨床課題について他医療職とともに解決できる薬剤師を育てる」について実践するために、対話、アクティブラーニング、そして自主性を持った実習に重きを置いて講義、実習、演習の内容を組み立てている。調剤学の講義においては、講義内に薬学生による知識をアウトプットする時間を設け知識の定着をはかる。実習、演習においては自主性を重んじ、テクニカルな指導よりも学生自身に試行錯誤させる十分な時間を取る。また、チューター活動や大学生活の中では、学生個々の性格に合わせた対話を積極的に起さない、大学6年間を通して社会人としての生活指導、薬剤師の素養の見つけていく指導を行う。

### ・アウトプット時間を取り入れた講義形式

薬剤師が必要とする知識には、記憶による習得が必須となる科目も多い。私が担当する調剤学もその一科目であり、覚えるべき項目が多い。知識の習得、その知識を使うためには、定期試験前の暗記では、その後にある薬剤師共通試験や国家試験への対応は難しい。そこで、調剤学の講義においては、アウトプット、解説、インプットの順で講義を進めていく方針としている。具体的には講義の始めに、現時点での知識(想像でも構わない)を紙面上に書き出し、それについて対話を通してアウトプットを行う。こうすることで学生自身に現時点での知識量について把握し、講師との対話を通して知識の重要性を考えることができる。その後、関連する単元の講義を行うことで、未知の知識について学習する。

・アクティブラーニングを取り入れた演習

4 年前期に行われるチュートリアル演習においては、アクティブラーニングを取り入れた演習を行う。チュートリアル演習Ⅱの中で担当する救急医療、災害医療等の項目は、学生が臨床医療をより意識する内容とする方針である。病院薬剤師として勤務している中で得た実症例をアレンジした題材を用いる。教員より医師、看護師、薬剤師役を分担し、実際の医療場面を再現する。そこで感じた医師役や看護師役とのコミュニケーションを通して得られる課題に対して、薬学生数名のグループでディスカッションを行うことで臨床解決能力を養う。ディスカッションした内容について、再現ロールプレーにて医師、看護師、患者へ説明を行う。臨床現場を強くイメージさせ、学んだ薬学知識をアウトプットすることで、知識の習得、コミュニケーション能力だけでなく、薬剤師としての素養も養う。

・会話を通した生活指導、薬剤師の素養の向上

本学は各教員が10名程度の学生を担当するチューターチューター制度がある。私が担当する学生に対しては、定期的を集め(チューター会)、対話を通して生活指導、勉強習慣の定着をはかっている。チューター会では、私の薬剤師としての経験を定期的に提示し、内的動機付けを行なうとともに、薬剤師の視点について考える時間を与えている。また、チューター会以外では定期的な自習時間を設け、担当生徒が定期的に集団で勉強する環境を整えている。そこでは、科目の勉強方法、試験情報の共有が行い、他の学生とのコミュニケーションの中で自身の進捗状況等も把握できる。サークル活動、委員会活動の乏しい本学では、縦のつながりが希薄であるため、横のつながりを最大限利用した環境づくりを行い、その中で学生と会話を積極的に行い生活指導、学習指導を行っている。

#### 4. 学習成果

私が担当する科目について3年後期より開口する。そのため、講義に対する成果や評価について言及することができない。本項では、臨時講義、チューター制度についての効果や所感について記した。

・キャリア支援講習(3年前期 特別活動)

自身の教育理念、教育方法を念頭に、「災害医療における薬剤師の役割」という題目で講演を行った。薬学生のアウトプットを意識し、すべての学生に数回発言を即した。発言することに対し不満の声は聞かれず、直前の講義では傾眠傾向にあった学生についても積極的に発現ンをしていた。

・チューター会

チューター会への担当学生の出席率は90%程度である。自習室の開放日にも毎回半数程度の学生が参加し、中間テストや期末試験対策を行っている。自主的に各自が得た資料や情報を学生間で共有できている。また、波及効果として担当学生以外の学生も参加している。

## 5. 改善のための努力

### ・生活習慣がつかない学生への対応

チューター担当学生のうち、数名が定期的な小テストの提出、実習レポートの提出が滞ってしまう。現在チューター会は月 1 回毎の開催となっている。生活指導は行っているが、身につかない学生もいる。今後は、未提出テストやレポートの提出について、定期的なメール連絡、および声かけを行っていく。

### ・留年生の対応

担当チューターの中には、留年生がおり、現学年への適応が難しい学生もいる。チューター会へも欠席勝ちである。なるべく声掛けのタイミングを計り、講義、自習への参加を促す予定である。

## 6. 今後の目標

### ・長期目標

自身の臨床経験を十分に活用し対話を通じた講義、生活指導、学習指導を継続し、薬学生の学力の底上げ、薬剤師としての素養のボトムアップを図る。また、自身の教育理念を実践するために、教育スキルアップを図る。

### ・短期目標:

#### ①2023 年度後期、2024 年度前期の講義資料の作成

2023 年 8 月までに 3 年後期調剤学の資料 4 年前期チュートリアル演習Ⅱの講義資料の作成を行う。前述のとおり対話やアクティブラーニングを利用した講義形式への作成行う。

#### ②担当学生全員の進級

2023 年 3 月までチューター担当学生の進級を目指す。定期的なチューター会、自習室開放を継続し、担当学生が取り残されることがないように把握する。

### 【添付資料】

湘南医療大学薬学部 学生便覧

湘南医療大学薬学部 シラバス

湘南医療大学薬学部パンフレット

各科目小テスト、中間テストの結果

チューター活動記録